

---

○リザベンカプセル [内]・△リザベン点眼液 [外]

---

【重要度】★ 【一般製剤名】トラニラスト tranilast 【分類】アレルギー性疾患治療剤, ケロイド・肥厚性瘢痕治療剤

【単位】△100mg/c a p, ▼点眼液 5mL/本 [0.5%]

【常用量】300mg/日

【用法】■内服：分3■点眼：1回1～2滴を1日4回

【透析患者への投与方法】経口投与後96hrまでの尿中排泄率は37.74% (1) とされているがFが不明なため投与設計不可能。薬物動態に関する報告がほとんどなく、透析患者の投与方法に言及した文献もない (5)

【保存期 CKD 患者への投与方法】経口投与後96hrまでの尿中排泄率は37.74% (1) とされているがFが不明なため投与設計不可能 (5)

【その他の報告】腎障害を悪化させる恐れがあるため慎重投与 (1)

【特徴】肥満細胞、各種炎症細胞からのヒスタミン、ロイコトリエンをはじめとする多くのケミカルメディエーターの遊離を抑制することによりI型アレルギー反応を抑制する。また、サイトカイン (TGF-β1)、活性酸素の産生あるいは遊離抑制作用をも有し、ケロイド及び肥厚性瘢痕由来線維芽細胞のコラーゲン合成を抑制する。

【主な副作用・毒性】膀胱炎様症状 (頻尿、排尿痛、血尿)、肝機能障害、黄疸、眠気、倦怠感、過敏症など

【吸収】ka=1.28/hr (1)

【F】資料なし (1)

【tmax】2hr [カプセル] (1)

【代謝】4位脱メチル化され硫酸塩もしくはグルクロン酸塩とされる (1) 主としてCYP2C9が関与 (1) 代謝物に活性はない (1)

【排泄】尿中排泄率37.74% [96hrまで, po] (1) Fが不明のため、尿中未変化体排泄率は不明 (5)

【t1/2】5hr (1)

【蛋白結合率】81.7% (1)

【Vd/F】単回投与データより約7L/manと小さくおそらくFが低い (5)

【MW】327.33

【透析性】データなし (1) 蛋白結合率がやや高いため除去率は高くないと思われる (5)

【TDMのポイント】腎不全患者以外ではTDMの対象にならない【pKa】3.7【O/W係数】資料なし (1)

【相互作用】未変化体および4-デメチル体はUGT1A1を阻害する [高ビリルビン血症に関連] (Kato M, et al: Drug Metab Dispos. 2007 PMID: 17220234)

【更新日】20200914

---

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。